

## 第1回新宿区文化芸術振興会議（第5期）議事要旨

■開催日時 平成30年10月29日 午後2時から午後3時30分まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 星山晋也 松井千輝 松島貴美子 的場美規子 大野順二  
大和滋 岡室美奈子 舟橋香樹 （欠席 垣内恵美子 中島隆太）

\*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順

事務局 村上文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 唯野主任

■議事の進行

### 1 開会

会長選出までの間、事務局が会議の進行を務めた。

### 2 委員の委嘱

吉住区長が各委員に委嘱状を交付した。

\*任期：平成30（2018）年9月9日から平成32（2020）年9月8日まで

### 3 区長挨拶

吉住区長が、会議の開催にあたり、挨拶を述べた。

（挨拶要旨）

- ・文化芸術は、私どもの心を養い、暮らしへの潤いや豊かさを与えるとともに、まちの魅力を高め、人々を惹きつけ、賑わいと活力をつくり出してくれるもの。
- ・区では、東京2020オリンピック・パラリンピックと、それ以降の時を見据えた「賑わい都市・新宿の創造」を基本政策の1つに掲げて取り組みを進めている。都市観光において、文化芸術は新宿の大きな魅力となると考えている。
- ・振興会議でも、新宿区の文化芸術の振興に向け、さまざまな視点から幅広くご議論いただけるものと確信をしている。

### 4 会長の選出

新宿区文化芸術振興会議規則第4条第1項及び第2項の規定に基づき、委員の互選により、全員一致で、高階委員を会長として選出した。

### 5 会長挨拶

高階会長が、会長就任にあたり、挨拶を述べた。

## 6 副会長の指名

新宿区文化芸術振興会議規則第4条第2項に基づき、高階会長が垣内委員を副会長として指名した。

## 7 議事

- (1) 本日の進行は、次第によることを確認した。また、検討内容のとりまとめと資料として保存することを目的として、会議の録音及び撮影について、各委員の了承を得た。
- (2) 「新宿区文化芸術振興会議の運営（進め方）について」  
資料2に基づき、事務局が説明を行い、第5期の活動は資料のとおり運営することが確認された。
- (3) 「新宿区文化芸術振興会議の調査審議事項について」  
第5期の調査審議事項について、意見交換を行った。
- (4) 調査審議事項について、専門部会で論点整理を行い、次回会議で審議することが確認された。

### 【以降、意見交換】

- ・2020年のオリンピック・パラリンピック、東京の大きなイベントに向けて最後の2年間になるので、2020年に向けての文化プログラムをどうしていくのかということと、さらに、その先にレガシーをどう残していくのかということが大変重要。まずこの2年の間に将来、2020年の先のことを考えていかなければいけない。
- ・MLA連携、ミュージアム、ライブラリー、アーカイブの、異なる種類の文化施設が所蔵している資料、絵画であったり、博物的なものであったり、図書あるいは文献のようなもの、そういった歴史的な貴重な資料を違う種類の施設がたくさん持っているということで、それをどうつないでいくか。
- ・デジタル化をしてアーカイブにしていくということは非常に重要。
- ・図書館や美術館の作品をデジタル化して、その画像を利用して、子どもたちに自由な発想でいろいろ議論してもらうというようなこと、ワークショップのようなものを盛んにやっている。
- ・新宿区のフィールドミュージアムそのものが、MLA連携のモデルのような形にできるのではないか。新宿区がいろいろな資料や歴史的な背景とか、あるいは現存する文化的な建物だったり、そういったものがどうつながっているのかというようなことをうまく表現していくようなことができれば、新宿区にとっては大変いい宣伝になる。
- ・渋谷区では「みんなで作るタイムマシン」というプロジェクトをやっている。  
1964年、前回の東京オリンピックのときに、渋谷のまちがどうであったかということ、航空写真をたくさん使って、VRというバーチャルリアリティのゴーグルを

かけて、その中を歩いて回るといったようなことが実際にできる。新宿区の1964年のまちをそういう形で見られたらいい。

- 新宿区でレガシーをつくっていくということを考えたときは、外国人に向けての多言語の体制が、新宿区が真っ先に取り組むべきこと。2020年以降に、ほかの区にその分野で先行されないようにしていきたいなという気がしている。
- 文化庁の「国際文化芸術発信拠点形成事業」では、国際発信ということを掲げて、各地で大きな芸術祭などを行っている。割と大きな補助金を交付する事業。自治体と民間が一体となって頑張っているところは、非常にレベルが高い。そこが何となくばらばらのところは、いまひとつという印象。
- 池袋が演劇文化の中心になるというのは大変いいことだと思う。しかし東京の演劇というのはもちろん各地にあるわけで、新宿も演劇文化には大変広がりを持った土地だと思っている。都立の東京芸術劇場というものが池袋にあって、そこを中心に東京の演劇が展開されていくこと自体は非常にいいことだと思うが、各地が文化庁の交付金を受けながら大きな文化的な事業を展開している中で、ちょっと新宿は地味なのではないか。
- 新宿の文化のいいところというのは、ゲリラ的というか、上から大きいものがおりてくるのではなくて、いろいろなところに文化の中心があって、そういうものがゲリラ的に常に展開されている。そのダイナミックさというのが新宿の文化のいいところだとも思う。
- 池袋のように大きなお金を投入して、大きいことをやればいいというふうに考えているわけでもないが、やはり何か新宿の文化と言われてもイメージが薄い。
- 若い人に聞いても、実はあまり新宿の文化と言われてもびんとこないところがある。オリンピック・パラリンピックに向けて、新宿に行くところという文化があるということがもう少し可視化されていくというか、わかりやすくなっていくと、非常によい。
- 新宿は、大学のまちでもあるが、やはり多国籍文化のまちというところが大きいので、これから国際発信をしていくにあたって、多言語の問題とか、もともと多国籍文化を持っている新宿というところをどうやって生かしていくのか、何かそういうところを考えられると非常によいのではないか。アジアのお客様もたくさんいて、そういう意味では、新宿というのはあらかじめアドバンテージがある。
- アジアの文化都市としての新宿というものと、やはり1960年代から特に新宿というのはある種の文化の中心の土地ではあったと思うので、もう一度、東京の、あるいは日本の文化の中心としての新宿というものをどういうふうにつくっていくのか、それと国際発信ということがどう結びついていくのかというところを考えられればと思う。
- 文化庁、国の基本計画が今年制定されているが、地域に多様な文化のプラットフォームをつくろうということで、きちんとした地域内の芸術拠点の連携を今、美術館・博物館内の連携と、劇場と美術館の連携とか、実演芸術の連携とか、多様な主体の、さまざま

なプラットフォームづくりというのを進めようというようなことが進んでいる。

- 新宿フィールドミュージアムをやり始めたのは、新宿は本当に多様な雑多ないろいろなものがあって、それをいかに顕在化して、持続できるようなバックアップをするというような趣旨だった。それで次のステップとして新宿文化センターは音楽、舞踊という芯の当て方をした。コアをどうしていくかというような取り組みで、そういう新たな展開を考えるためにも、レガシーをどうするかという話も今までの続きの上で議論できればいい。
- 2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、いろいろな各主体がすごい勢いで頑張っているなというのは、すごく肌で感じる。
- 東京は世界に本当にまれに見るクラシック音楽のあふれているところ。週末の土曜日、日曜日にはいろいろな公演あり、お客さんは人口の1%と言われているが、その1%を取り分けるという状況。東京ほど演奏会を多く行っている都市は、世界にないと思う。
- 中国の勢いというのはすごく感じる。ホールはすごく立派なものがあって、お客さんがすごく若い。20年ほど前は、クラシックのマナーが悪くて、もうどうしようかと思ったが、最近では、もう本当に静かで、スマートフォンで写真をバシバシ撮っていたけれども、若い人たちが熱心に聴いているというのは、すごく驚異に感じた。
- 東京だと、60代、70代の方が熱心に聴くので、クラシック音楽は、これからいかにして若い人を取り込むかということが課題。
- 新宿文化センターが本当にバレエ、舞踊に特化した活動をしているのかどうかというのをしっかりこの先見ていかなければいけないと思う。
- 日ごろから新宿文化センターを利用して、やはりハード面、ソフト面で、まだまだというところもある。
- 豊島区が、国際アートカルチャー都市構想というのを着々と進めているので、新宿区もさまざまな方向から多様な文化の発信を強化していけるように、この会議で話し合いを重ねていけたらよい。
- 渋谷区と新宿区で、ナイトタイムエコノミーで連携するという試みは、非常に画期的だなと思う。フィールドミュージアムも開催期間を拡張するという話も出ているので、やはり夜遅くまで人々が楽しめる文化芸術のイベントというのを増やして、新宿の魅力をアピールしていけたらなと思う。
- 文化センターは振動が伝わりやすいので、建物的な制限はあるが、うまく運用がもっとあると思う。
- 大久保周辺では多言語の子どもたちが多く入ってきて、そこの学校や地域の課題にはなって、意思疎通について問題にはなっているが、やっぱりそういうところに融合できるのが文化の力。お互いが知り合う、お互いの文化を知り合うということが、まずスタートになるのかなとは思っているので、新宿区でもいろいろなイベント、音楽祭がある

ので、それらを通じて多国籍の人たちの融和ができるとうい。

- 若年層の人たちは、メディアとかユーチューブなど、自分の好みのことに関してはあるが、そうではないものに対して視野がとても狭くなっている。小学生のころにいろいろな文化に触れているということが、この先、大きくなったときに、後の聴衆になったり、観客になったりすると思う。
- 文化庁では、芸術家を学校に派遣するような事業をいっぱいしている。新宿区独自でそういったことも考えられれば、新宿区は本当に文化人がいっぱいいるので、そういう人と出会うということから含めて、子どもたち、将来の芸術家というものの根っここのところが育っていくのではないかと期待している。
- 2020年とその先のあり方を考えたい。
- 新宿というのはすごく多様性のまちなので、その多様性ということと、さらにユニバーサルであるということは、これからとても大事にされていく。オリンピックを控えてバリアフリーを、施設面だけではなくて、心のバリアフリーもどんどん改善して、文化に対してもバリアフリーというものを新宿からどんどん発信していけるようなことができればいい。
- 情報発信をいかに効率よく、そしてどのようにやっていくべきなのかなということを探掘りできればいい。SNSなど新しいものをどんどん取り入れることも大事だが、昔ながらのもので守っていかなければいけないこともたくさんあると思う。
- 外国の方々がたくさんやってくる。特に神楽坂とか歌舞伎町が中心だが、そういう人たちを迎える中で、新宿区の文化振興とどうつなげていくのか。新宿文化センターの活用と、新宿区はやっぱり大衆文化なので、そういう大衆文化を見せるような取り組みがあってもいい。新しい大道芸術の集まりみたいなものがあってもいい。
- 新宿に住んでいる方や新宿にやってくる人たちに対しては、やはりフィールドミュージアムの中でアクションではない部分、文化財散歩の目印になるようなものを多く発見していく。地域文化財も、もう少しフィールドミュージアムの中に反映させていったらいいのではないか。
- 言うまでもなくオリンピック・パラリンピックは大事なイベントだが、以降に我々はどのようなレガシーを残していけるか。ハード、ソフトを含めて、いろいろな企業も、長く続くようなことも考えたいと思っている。
- レガシーとしては、もちろん従来の芸術文化振興も重要だが、そのさまざまな面とつながるといことがある。
- 特に新宿は外国の方で住んでいる方も、訪問する方も非常に多い。それもアジア、ヨーロッパ、さまざまな地域から来ている。その外国の方々に対する新宿の、あるいは日本の文化発信、我々にとっては外国、異文化と触れることになる。その文化接触による文化交流、外国の理解にも非常に重要なポイント。言語の問題とか、多言語化にどう対応するか。

- 新宿にも大変すぐれた文化遺産、地域遺産があって、それを我々自身もいろいろ受け継がなければいけないが、それを外国の方々に伝えていくということが重要。
- ジャンルによっては、お年を召した方、ある程度の世代にはよく知られているが、若い人とはやや縁が遠いとか、逆に若い人の新しい文化というのがどうもよくわからないところがあるが、これまた重要な新しい活動であり文化だと思う。
- 子どもたちへのつながり、広がりということは、大変重要なポイントになる。社会的な広がり、歴史的な広がり、国際的な広がりというものを、具体的にそれをどうするか。
- 美術なら美術館だ、音楽ならホールだ、だけではなくて、文化施設と、MLAという、ライブラリーであるとか、あるいはそのほかの文化施設をうまくつなげていく。そして、それをお互いに利用できるような形を、実際に具体的な方策として考える。新しいテクニカルな技術を応用すると同時に、それぞれのジャンル、文化の広がりとしてもジャンルの拡大がある。当然、活動としてもジャンル横断的な活動もあるので、それをうまく生かしていくということを考える。
- やっぱり新宿はダイバーシティというか、そういう多様性を打ち出していったらいいのではないかと。非常に多国籍なまちであるということと、LGBT的にも新宿というのは非常に際だったまちでもある。今後やはり高齢化していくにあたって老いの問題など、そういうさまざまな形で多様性ということを何かもっと打ち出していけないか。
- 多様性ということを打ち出した、例えば食と文化の祭典のようなものを行う。何か新宿の個性として打ち出していけないか。
- 国際的にも今や和食というのは大変注目されている。それも重要な文化遺産でもある。新宿は飲み屋も食堂もいろいろあり、そういう部分も含めて日本の文化。
- 日本の場合、お茶や食は文化的なもの結びついている。それが現代的にどういうふうにするかという問題もある。
- 何かイベントを開く際にスポーツだけでは人が呼べなかつたりする場合に、食文化をつけてさまざまな人を呼べば、例えば子どもたち、スポーツを体験する対象ではない高齢者の方とか、ファミリー層とかも、食文化を通して人を呼べるのではないかと。
- 「一shin一音祭」の時に、外にいたら若者たちの話し声が聞こえてきて、こんなところにホールがあったんだとか初めて知ったみたいな声が聞こえてきた。これから若者を対象にした音楽をやれば、若者も集まってくる。新宿文化センターが、若者も呼びたい、若者の認知度を上げたいということであれば、舞踊と音楽を2本柱にするという話もしているので、音楽に関しても若者向けの音楽などを企画すれば、若者も増えると思う。
- 新宿文化センターで行った「コンドルズ遊育計画」では、舞台に滑り台があって舞台の上から滑ったりとか、舞台袖も迷路があったりとか、全部段ボールでできていて、そういったふうに関幕前の舞台裏やホワイエで遊べたりした。開幕後は、コンドルズとい

う団体が踊ったり、スクリーンに映し出したりした。スクリーンで楽しめるのだったら、オリンピックのパブリックビューイングもできるのではないか。

- 異文化の機会があると、食文化に対する、例えばタブーがある文化もある。これを食べてはいけないとか、それは我々も知らないといけない。さまざまな問題も含めて、それは我々の異文化理解にもなるし、同時に我々自身の健全な成長にも重要なポイントだと思う。
- 音楽とか各ジャンルでも多様性がある。例えば「-shin-音祭」は、今まで新宿文化センターがあまり取り組んでいなかったような地域事業としてやった。地域のライブハウスと連携したことによって、ライブハウスに出ている人たちが初めて使えた。今まであそこを使えるとか、利用しようなんて思ってもいなかったの、知らなかった。文化センターをこういうものに使う、やっていいんだよというような発信をすると、若者のポップスから、オーケストラ、民族音楽など、音楽の多様性に集めるような何らかのものができるとおもしろい。
- 2022年に東急が劇場とホールを、新たに歌舞伎町につくるという話がある。22年に向けて何か1つの、何らかの展開を図っていくというのにはあり得る。
- それこそ食文化の多様性といっても、B級グルメではなくて何か違った打ち出し方があるのではないか。新宿らしい何らかの打ち出しがあってもいいし、そういう特徴づくりをしていく。
- 踊りも多様で、日本の伝統文化、踊りの要素は非常に豊か。
- 新宿文化センターのあのホール、あの構造だけでは間に合わないと思うが、何らかの地域の施設も巻き込んでやっていくという手はある。そういう意味でのプラットフォームとか、博物館とか、それこそ演劇博物館等と連携して何かやるとか、テーマを決めてやるというのはおもしろいと思う。
- 横浜にはDeNA球団があるので、DeNAのチアダンスチームの人たちが、地域貢献ということで子どもたちを集めてワークショップをやっている。新宿でもそういう企業に協力、社会貢献していただくような形で、企業を巻き込みながらやっていくということも、これから非常にいいのではないか
- 企業活動もいろいろ実際に文化もやっておられるし、企業の広い範囲での活動とうまく連携できるような形というのは重要。
- 京都コンサートホールで、「時の響」というイベントを行った。日仏の文化交流のようなことをテーマにしながら音楽のイベントを中心にして、展示があったり、ワークショップがあったり、フランスの食のちょっとしたものが出てきたり、屋台がちょっと出たりした。「京都学・歴彩館」で、子どもたちのワークショップを運営して、普段いないような人たちがたくさん来て、複合的なイベントのような形をした。北山地区の賑わいをどうつくっていくかということに、京都府、京都市と連動するような形で企画をしたようなイベント。新宿区も、いろいろな施設をうまく、いろいろなきっかけ

をつくりながら複合的なイベントをして、意味のある賑わいをつくっていくというようなことは、企画次第でできること。

#### 8 専門部会の設置及び専門部会員の指名

新宿区文化芸術振興会議規則第6条の規定に基づき専門部会の設置が決定され、同条第2項の規定に基づき、高階会長が、垣内副会長、大和委員、舟橋委員を専門部会員として指名した。

#### 9 事務連絡等

第2回目の会議は、2月～3月頃に開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

#### 10 閉会

会長の挨拶をもって、午後3時30分に閉会した。